

## 第5回宮津市都市計画マスタープラン策定委員会 議事録

○ **日時** 令和3年3月18日（金）午後3時～

○ **場所** 宮津市役所別館3階 第5会議室

○ **出席者** (11名中9名)

谷口 知弘（福知山公立大学地域経営学部地域経営学科教授）

谷口 政史（宮津商工会議所副会頭）

高松 和子（宮津市子育て支援センターセンター長）

井上 真哉（京都府建築士会宮津支部常任幹事）

藤本 長壽（宮津市自治連合協議会副会長）

今中 睦美（宮津市農業委員会委員）

黒岡 芳子（宮津市地域女性の会会長）

嶋崎 豊（宮津市水産振興会会長）

小野 孝司（京都府丹後土木事務所技術次長）

※欠席 今村友里子（舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科講師）

小倉 信彦

（一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部本部長）

○ **事務局**

山根（建設部長）

中嶋（建設部都市住宅課長）

稲葉（建設部都市住宅課都市計画係長）

石田（建設部都市住宅課都市計画係）

---

1. **開 会**

2. **部長挨拶**

3. **議 事**

（1）第4回宮津市都市計画マスタープラン策定委員会の意見と対応について

（2）地域別構想、これからのまちづくりの展開について

事務局より説明の後、委員による意見交換

## 【質疑応答及び意見交換内容】

### (1) 第4回宮津市都市計画マスタープラン策定委員会の意見と対応について

#### <文化的景観沿岸ゾーンについて>

- ・ゾーン設定することは了解。
- ・「溝尻舟屋」「文化的景観」のどちらかを明確にし、名称、エリア共に再検討すべき。
- ・「溝尻舟屋」としたときにも、舟屋のある集落だけでなく、周辺も含めて景観保全の意識は必要。
- ・再検討にあたっては、教育委員会社会教育課と十分に調整すること。
- ・文言として誤解を招かない、地域の方もわかりやすい表現とすること。

#### <キャッチフレーズについて>

- ・総合計画は総花的であるため、どこでも同じようになるため、こちらの方ではもう少し地域に根ざしたものにしようという話であった。
- ・宮津市というのはどういうところか、一言二言の言葉で簡単にイメージしてもらえるようにというのが必要と思う。
- ・与謝野町あたりは、すごく上手いと思う。「織りなすまち」、織物の関係も含めている。センスがいいと思う。
- ・短くてセンスがいいのがいいと思う。だらだらと長くなるとよくない。
- ・短く、なるべく耳障りのいい、ゴロがいいのがいいと思う。
- ・どちらかと言うと、海と文化の交流地とかいいかなと思う。短
- ・わかりやすい言葉で、宮津らしさが出るようなキーワードにしてほしい。

「共に創る、人が創る、自然が創る、豊かなまち みやづ」

「共に創る 海と森と歴史を活かした豊かなまちづくり」

「共に創る 自然と文化が煌めく観光交流都市」

「共に創る 海と文化の交流地」

## (2) 地域別構想、これからのまちづくりの展開について

### <地域別構想（沿岸）>

#### ◎名称、意図するところ、方向性について

- ・賑わい沿岸エリアについて、意図するところを明確にし、名称を検討したほうがいい。賑わいを否定するものではないが、伝わりづらい。何かに誘導するのであれば、その何かをわかりやすくして誘導していくべきと思う。
- ・例えば、道の駅やトトマートやヨットハーバーなどがあり、今後海沿いのサテライトオフィスや体験型の工場などを誘導していくのであれば、「交流沿岸ゾーン」など、意図するものをわかりやすい言葉で示したほうがいいと思う。
- ・まちづくりの方向性について、それぞれの沿岸エリアごとに記載したほうがいい。

#### ◎範囲について（観光沿岸ゾーン）

- ・意図するところを明確にした名称にしたうえで、再検討すべき。

(具体の指摘箇所)

観光沿岸ゾーン

- ・杉末から文珠までも同じ考え方のため、含むべき。
- ・文珠から須津について、範囲を広げるべき。

#### ◎土地利用規制について（観光沿岸ゾーン）

- ・観光沿岸ゾーンの内、須津から文珠の部分は自然公園の規制が厳しいところになる。セットバックの制限で、道路から20mは基本的には何も建てられない。それらが原因になっているかわからないが、結果として、昔からある建物は、老朽化し更新もされていない状況で、景観上いいとは思えない。その上、制限により活用しがたい状況である。
- ・都市計画マスタープランで「観光沿岸ゾーン」と位置付けるからには、活用しやすい状況にできるよう、努めるべき。単に緩和を望んでいるのではなく、例えば、道路側や海辺に松を植えるなどの景観配慮を条件に、セットバックを緩和できないかなど、今の時代にあった方法がないか検討し、関係する機関と調整してほしい。
- ・「観光沿岸ゾーン」と位置付けているのに、そういう土地利用ができないということにはならないようにしてほしい。

(参考)

意見のでている箇所は、宮津天橋立景観計画の俯瞰景観重点ゾーン

## <地域別構想（北部）>

### ◎地域の特徴について

- ・北部地域全体、日置地区全体としては、人口も世帯数も減っているが、世帯数が増えている地区がある。（日置上地区）おそらく、自然減で減っている数よりも、移住してくる人の方が多いことからそうになっている。
- ・また、宿泊施設も増えてきていて、交流人口も増えてきている。定住人口、交流人口共に増えている非常に楽しみな地域と思う。北部地域、日置は最も将来性があると思っており、今後は北部地域が発展していくと思う。
- ・海も山もあり、伊根の方にも、橋立の方にもほどよく近い距離に位置し、海と星も見える丘公園や世屋高原、ゴルフ場など景色のいいところもある。
- ・橋立みたいな観光地にはない、落ち着くところがあるのではないかなと思う。よそからの移住者が多くなったのはその辺に魅力を感じたのだと思う。
- ・観光業も、今までの観光業の仕方から変わりつつあるし、いろんなことでビジネスチャンスのあるエリアになりつつあると感じている。上手に、定住者や滞在者も含めての賑わいづくり、活性化に資するエリアかなと思っている。
- ・農業も盛んに行われており、すぐに売り切れほど、日置は良いものを作っている。こういうものを作ろうという強い意志があって、いいものができるから皆さんも買いたくなる。
- ・この地域の目指す方向性は、いろいろなところから色々な人が来て、住んだり、滞在したりして、何かして、そういう人たちが交わってにぎわっていくイメージ。
- ・北部はアクティビティ。体験交流というイメージ。養老も定置網の体験があったり、海と星見える丘公園、ゴルフ、府中にはアクティビティセンターもあったりしているいろんなことができる。実際にここに来て、いろんなことができるエリアと思う。グランピングにしても体験できる施設。そういう意味でも、はっきりとして方向性は出ていると思う。
- ・道の駅でも整備し、海産物も含めて販売すればいいのではないかなと思う。宮津市のとってもいいと思う。

### ◎海業、森業について

- ・漁業をしていない人でも、海に関わる何かをしている人。農業、林業をしていない人でも、森を活かした何かをしている人。ジビエなど。趣旨はわかるし、何となくそういうことだなと分かるのだが、見る人がどう感じるかを考えると、意図が通じる表現がいい。
- ・海業、森業は事務局で、新しい、もっとわかりやすいものに変えること。
- ・「業」という言葉はあまり使わないほうがいいのではないかなと思う。移住者が海の近くに住んで、すぐに漁業をやりたくても、漁業権が簡単には取れない現状がある。

### <概要版について>

- ・概要版について、地域別の方向性のところ。市民の皆さんはこれを見ることになると思うのでわかりやすい表現にすること。
- ・「まちづくりの基本的な考え方」から「まちづくりの方向性」につながっているように記載すべき。
- ・今更の話ではあるが、ゾーンがあったり、拠点があったり、軸があったり、とても分かり難い。名称も含め、簡潔になるよう整理したほうがいい。

### <規制に関して（行政の役割）>

- ・行政の役割のまちづくりのルールづくり、あたかも規制をしていくのがルール作りになってしまう。人にきてもらうためにはいろいろなことをしていかないといけないし、規制を外すのもルール作りなので、外すことも含めて進めてほしい。
- ・よく言われるのが、変えるべきものと変えてはならないもの。結局はそういうことだと思う。絶対こうあるべきというものは、変えないのも妥当。時代に合わせて変えていくべきものは変えていくべき。
- ・柔軟かつ創造的なルールを作っていこうということ。

### <海の魅力、可能性について>

- ・海側の土地は需要が高い。そのことを認識し、活用しやすくすれば需要はあるので、土地の有効活用策を研究し、施策に反映させてほしい。

### ＜資料の修正箇所＞

(5章) 商業地、工業地の方針

(8章) 図(共創)

(概要版) 文化的景観沿岸ゾーンの不要な記載

(全体として)

- ・図が見づらい。背景の絵を薄くし、ゾーン分けの図を強調するなどしているのはわかるが、結果分かり難くなっているのではないかと思う。
- ・これまでの議論の修正点を再確認し、ひとまとめにした時の整合性の確認が必要。
- ・地区とゾーンと軸、拠点、エリアの仕分け(定義を明確に)
- ・用語の定義の再確認
- ・

## 4. 閉 会